

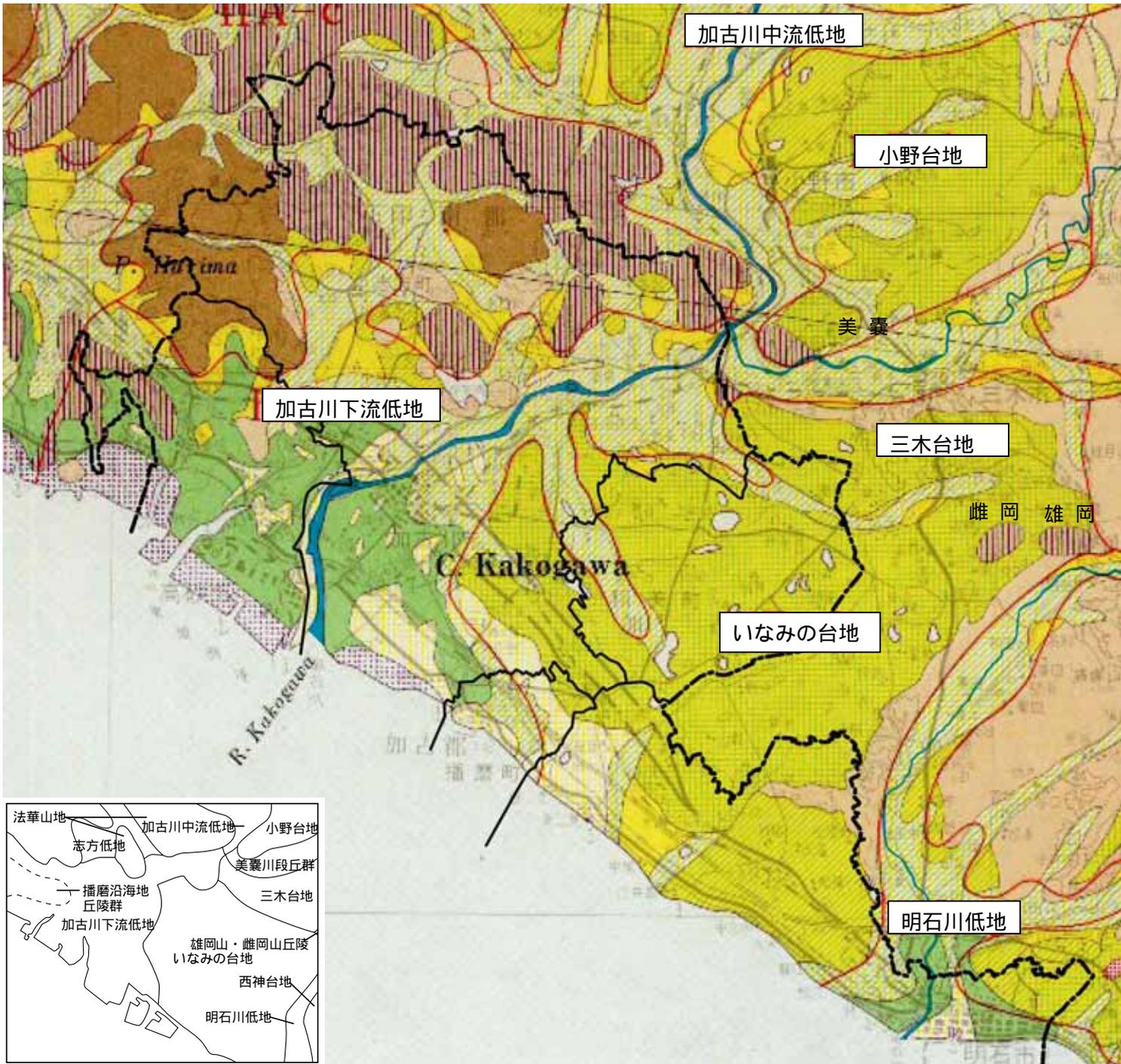
## 特長のある地形

加古川の下流とその支流の美嚢川、明石川と播磨灘に囲まれた地域の大部分は、いなみの（印南野）とよばれる広大な洪積台地です。

この地域は、第3紀末（500万年前～170万年前）以降に六甲山地の間欠的な隆起運動によって形成されたもので、現在は神戸市西区・神出町にある雌岡山の山麓部（140m）を最高部として、西南方に向かって緩く傾斜し、その末端は加古川の三角州に堆積されています。

加古川下流の東岸の日岡山付近からは、隆起の時期によって高位と低位の台地に二分されます。低位は東南にかけて野口台地となり、しだいに播磨灘との間に海蝕崖を増し、さらに東南進して大久保台地に入ると、新旧の海蝕崖によって、前面の播磨灘と背面の岩岡台地に挟まれ、その東端は高位台地の東側に延びる明石川と急崖で境されています。この野口・大久保の2低位台地の北側に天満・加古・母里・神出・岩岡・相良などの高位台地が並んでいます。後者は「前輪廻の降起扇状地堆積物」が広く分布し、開析がはじまったばかりの地形で、一般に平坦ですが、これらの高位台地も周囲の加古川本流やその支流美嚢川、明石川の河岸浸食によって急崖が形成され、同じく独立の台地地形となっています。

一方、加古川の西岸は、北部に中国山脈の支脈を仰ぎ、山岳地帯から播磨灘に向かって穏やかに傾斜し、海岸部でゼロメートル地帯を抱えています。また、下流域は加古川に開けた沖積平野で、三角州低地であるため地下水位が高く、地質は軟弱で砂質シルト及びシルト層が広く分布しています。



出典：土地分類基本調査 地形分類図（国土交通省 土地・水資源局）

凡 例	
	山地
	大起伏山地
	中起伏山地
	小起伏山地
	山麓地
	火山地
	大起伏火山地
	中起伏火山地
	小起伏火山地
	丘陵地
	大起伏丘陵地
	小起伏丘陵地
	台地
	砂礫台地（上位）
	砂礫台地（中位）
	砂礫台地（下位）
	岩石台地（中・下位）
	低地
	扇状地性低地
	三角洲性低地
	自然堤防・砂州
	(副分類記号)
	埋立地
	人口密集地
	付加記号
	種斜面
	池にり地